



●2018年 桜開花予想に関するよくあるご質問

Q1：桜開花予想の発表のスケジュールは？

A1：第1回は2月7日(水)、第2回は2月21日(水)、第3回以降は3月から4月下旬まで毎週水曜日に発表を予定しています。2月中は開花日のみを発表し、3月以降は開花日と満開日を発表します。

Q2：開花日・満開日の基準は？

A2：気象庁の観測基準と同じです。開花日は標本木で5～6輪以上の花が咲いた状態となった最初の日、満開日は標本木で80%以上のつぼみが開いた状態となった最初の日です。

Q3：予想する地点数は？

A3：2月中は51地点、3月以降は全国で92地点の予想を発表します。予想地点92地点は、各地気象台が観測する標本木53地点と自治体・公園などの協力機関から観測データを得られる36地点、および日本三大桜の3地点となります。

Q4：日本気象協会の桜開花予想の手法・特徴は？

A4：花芽の生育過程に大きな影響を与える「秋以降の気温経過」に重点を置いた、独自の予測式を用いて開花予想を行っています。各地気象台の標本木や公園などの協力機関による正確な観測データを重視した、気象学的根拠に基づいた予想を出しているのが特徴です。

2017年の桜開花/満開予想の平均誤差は、開花予想が2.1日、満開予想が2.1日でした。関東から西のエリアで、3月の気温が平年を下回り、九州の南部ではかなり低いところもありました。そのため、桜前線は平年より遅いペースで進み、九州、四国地方での開花が遅れたところが多く誤差が生じました。

Q5：開花予想に使うデータは？

A5：以下データを使用しています。

- ①前年秋から予想作業日前までの気温観測値
- ②予想作業日から開花時期までの気温予測値（日本気象協会ポイント予報および長期予報）

桜の開花時期には、前年の秋から春にかけての気温が大きく影響します。桜の花芽（はなめ）は前年の夏に形成され、その後、休眠に入ります。冬になって一定期間の低温にさらされると、花芽は休眠から覚めます（休眠打破）。休眠から覚めた後は、気温の上昇とともに生長し開花しますが、気温が高いほど花芽の生長が早く進み、開花が早まると考えられています。

Q6：日本三大桜とは？

A6：福島県三春町の「三春滝桜」（ベニシダレザクラ）、山梨県北杜市の「山高神代桜」（エドヒガンザクラ）、岐阜県本巣市の「根尾谷 淡墨桜」（エドヒガンザクラ）を指します。いずれの桜も、大正11年（1922年）に国の天然記念物に指定されています。樹齢が1000年以上で、幹回りが9メートル以上あります。

日本三大桜の開花予想作成にあたり、地元自治体やお寺の住職の方々のご同意を得て、過去の長年にわたる開花日や満開日の観測データを使わせていただき、それぞれの桜の開花日や満開日に関する独自の予測式を作成しました。開花時期には日本気象協会の気象予測を用い、地元自治体やお寺の住職の方々のご協力も得ながら、精度の良い開花予測を提供します。